

春風におくる

狐塚賢一郎

常々、歩き方はそのひとの人柄をあらわすと思っ
ているのだが、星川熙先生もまさにそれを実感
させるお一人である。背筋をしっかりと伸ばしてゆ
ったり大きなストライドで歩く姿に先生のお人柄
があらわれている。また、どこでお会いしても常
に笑顔で爽やかな挨拶をしていただく姿は、私が
20代で入職した20年前とまったく変わることが
ない。そんな爽やかで物腰の柔らかい先生である
が、会議等でご一緒する際には、ここだけはと
いうところでは、いつもの静かな優しい口調で、
明瞭に正論を説いてくださる。とかく勢いや声の
大きさに流されがちな議論を落ち着かせ、論点や
意図を思い出させてくださるのであった。

そんな先生のお仕事ぶりで特に印象に残ってい
るのが、2008年1月実施のセンター試験に際し、
センター試験実施副委員長をお務めになった折
のことだった。当時は実施委員長である学長の
もと、学部持ち回りで当番学部入試委員の適任者
が実施副委員長として、その任にあっていた。
その年は星川先生が実施副委員長として、セン
ター試験の試験監督者説明会をとり仕切ってく
だされた。センター試験監督者説明会は、これ
でもかというほどボリュームな資料の量に、それ
だけで辟易してしまい、説明も冗長なものになり
がちだが、星川先生は、資料を丹念に読み込み、
重要なポイントを整理され、いつものおだやかな
口調で理路整然と教職員に示して下さり、時間
内にコンパクトにおさめて説明会を終えられた。
そういう方がトップにいとセンター試験に係る
教職員も落ち着いた心持ちで試験監督にあたる
ことができるもので、スムーズにその年のセン
ター試験業務を終えることができたこと記憶し
ている。その後、私自身入試担当学長補佐の立
場でセンター試験監督者説明会を任せられた
ことがあったが、私の中にはお手本として星
川先生の姿があった。

また、星川先生自身のもう一つの側面として
硬式庭球部の部長を開学以来30年間お務め
いただいたことが挙げられる。ただかたち
だけの部長ではなく、折にふれて、学生
達の相談にのり、監督等指導者との調整
や学生の生活指導等、学生の目

線にたって親身に部の運営に尽くして
いただいた。

最終年度となった2015年度は硬式
庭球部の次の部長の件について心を砕
かれ、スポーツ教育センター長である
私のところにも、夏休み前から後任
の部長の相談に来ていただいた。最
最終的に杉江典子先生にご快諾をい
ただき部長職を引き継いだのだが、
その際にも、キャプテンを伴って杉
江先生を訪ねられ、丁寧に引き継
ぎをしていただいた。

硬式庭球部根本監督のSNSで拝見
した年度末、年度はじめのテニス部
の会の写真には、やや緊張したおも
もちの新部長と安心され柔和な表情
の旧部長の笑顔が並んでいた。

本学の教育は、奥武蔵という豊かな
自然環境や地域との連携を活かした
全人的な教養教育を基礎として、そ
の上に各学部の専門教育をのせてい
くのがあるべき姿であり、本学が社
会的使命を果たす上で最重要である
と考えている。大学の置かれる社会
的環境が厳しくなり、開学以来の豊
かな教養教育を担った先生方の多く
が去っていく中で、そのバランスが
崩れつつあることに危惧の念を抱
かざるを得ない。そんな中、文系
総合大学であるからこそ、教養教
育の中でも自然科学分野の柱とな
ってこられた星川先生の存在の大き
さ、先生がいてくださるからこそ保
たれた教養教育の豊かさを今ひし
ひしと感じ、先生の抜けられた後、
いかにそのバランスを保ち、教養
教育を支えていくかが、残された
私たちの大きな課題となることを
痛感している。

星川先生のあたたかで誠実なお人
柄と筋をしっかりと通すお仕事ぶり
は、大学人として、教員としてある
べき姿を私たちに示して下さって
いたように感じる。大学の中庭を
歩く後ろ姿そのままに、春風にお
くられるように爽やかに本学を去
られる星川先生の背中に衷心より
感謝の気持ちをお伝えし、また今
後とも折にふれて先生の穏やかな
正論で私たちを導いてくださるこ
とをお願いしたい。